

2001年度野幌森林公園内の鳥類調査結果について

梅木 賢俊 武田 忠義* 永安 芳江**

要 約

北海道中央部に位置する野幌森林公園の森林地区と草原地区において、2001年（平成13年）5月から2002年（平成14年）3月に鳥類の調査を実施し、鳥類リストを作成した。森林地区では46種、草原地区では49種の鳥類が確認された。観察された種類や種数は、4月の調査が行われていないことから2000年度より減少しているものの、石狩地方の低標高地の成熟した落葉広葉樹林で確認される種類をほぼ網羅しており、森林性鳥類にとって良好な環境を維持していることがうかがわれる。調査を開始した1999年度から2001年度までの3年間の調査で確認された鳥類は77種となった。

Key words: 北海道中央部、野幌森林公園、道立自然公園、鳥類、リスト

1 はじめに

野幌森林公園は都市部近隣にあり、多くの道民が利用する身近な自然である。同時に、この公園は、石狩低地帯における開拓以前の姿を大規模にとどめる貴重な森林を有し、周辺地域の生物多様性を保持するために重要な存在である。一方、森林生態系の中で一次・二次消費者の位置にある鳥類は、生物多様性評価の指標ともなる。

そこで、野幌森林公園の鳥類相や鳥類の季節変動、長期的な変動を把握し、森林公園の保護と利用に資することを目的として、1999年度から鳥類調査を行っている。

今回は、2001年度に行った調査結果について報告する。

なお、調査は、現在のところ野幌森林公園の主要な利用拠点となっている北部地域において実施している。

2 調査地

野幌森林公園は、札幌市の中心部から東方約11～15kmに位置し、1968年（昭和43年）に北海道百年を記念して指定された面積約2,051haの道立自然公園である（図1）。

本調査地は標高が30m～90mと低く、全体としては傾斜の少ない緩やかな丘陵となっている。中央には南北方向にやや小高い分水嶺が走り、東側は千歳川、西側は豊平川の支流が深い沢となって入り込んでいるため、地形が複雑である。さらに、農業用の溜池などもあるため、変化に富んだ環境を有している。

森林植生は、温帯林から亜寒帯林への移行帯の要素が比

較的よく残されている。ミズナラ、カツラ、シナノキなどの温帯性の広葉樹林や、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹と広葉樹が入り交じった針広混交林からなる多様な林相が見られ、100種を超える自生の樹木が記録されている。ただし、公園面積の40%程度をトドマツ・カラマツなどの針葉樹人工林が占めている。本地域は多雪地帯であり、林床はクマイザサやチシマザサが優占するほか、エゾユズリハ、ハイイヌガヤ等の低木が茂っている。

また、公園の北西部に草原が分布する。ここは休養園地区とよばれ、耕作放棄時に表土が搬出されたと思われる状態で、堅く乾いた土壌である。そのため、草原は主にセイタカアワダチソウ、オオアワダチソウなどが優占する帰化植物群落からなっている。

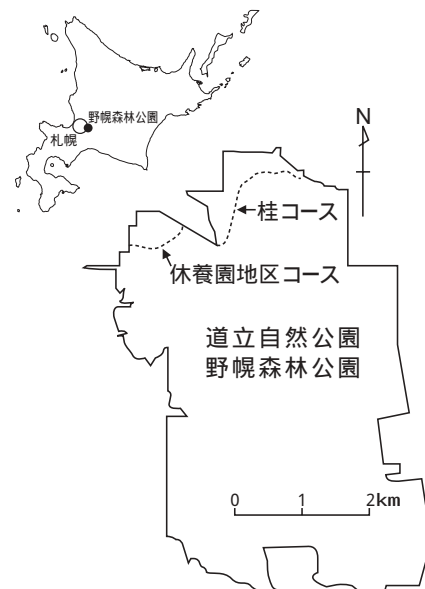


図1. 野幌森林公園の位置及び調査路

* 北海道環境生活部環境室自然環境課

** 北海道野幌森林公園事務所公園利用課

3 調査方法

遊歩道等を利用して、森林地区（桂コース）に2km、草原地区（休養園地区コース）に1kmの調査路を設け、線センサ法を実施した。

桂コースはハルニレ、ミズナラの大径木を主体とし、トドマツを交えた針広混交林である。休養園地区コースはオオアワダチソウ等が優占する草原と沢沿いに残された天然性二次林である。沢沿いの天然性二次林は樹高10数mまでのミズナラ、ハルニレ、ヤナギ類を主体とし、林床はクマイザサが優占している。特に林縁部はクマイザサ群落及びヤマブドウなどのマント群落がみられる。

線センサ調査は、両コースで日の出後1時間前後を開始時刻とし、荒天日は避けて行った。調査路を時速1～2kmで歩きながら、調査路の両側それぞれ25m、計50mの範囲に出現する鳥類の種類と個体数を記録した。調査範囲外に出現した鳥類についても、種類を記録した。

本公園内においては、5年ごとに一度鳥類相及び季節変動を把握するために毎月調査を行う詳細調査年を、その間を各季節ごとの鳥類相を確認するだけの通常調査年に設定しており、2001年は通常調査年に該当している。

しかし、2001年度は秋冬期（10月～1月）に草原地区（休養園地区コース）で、園路工事を行うこととなったため、工事の影響をモニタリングする目的をかねて、冬期間に毎月調査を行うこととした。

調査は、両コースを同日に実施し、2001年5月、6月の各月2回及び2001年9月～2002年3月まで各月1回、計11回行った。

4 調査結果及び考察

森林地区の桂コースでは2001年度に46種（表1）が、草原地区の休養園地区コースで2001年度に49種（表2）が確認された。

両コースあわせて確認された種数は59種類であったが、このうち36種が両コースに共通して観察された。これは休養園地区コース沿いに天然性二次林が存在するため、桂コースと共通する森林性の鳥類が相当数観察されたためである。

一方、桂コースのみで確認された種類は、ハイタカ、ヤマシギ、フクロウ、ヒレンジャク、コルリ、ルリビタキ、トラツグミ、メボソムシクイ、キクイタダキ、エナガの10種であり、いずれも森林性の鳥類であった。また、アカゲラ、コゲラ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、ウソ、イカル、ニューナイスズメも森林性鳥類であり、両コースに共通して観察されているが、休養園地区

コースに比べ本コースで観察数が多い傾向にあった。

また、休養園地区コースのみで確認された種類はアオサギ、キジ、ハクセキレイ、モズ、アカモズ、ノゴマ、アカハラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、ベニマシコ、スズメの13種類で、草原や耕作地などを好む種類が多くなっている。このほかにもシメ、オオジシギなどは草原や灌木林などの開けた環境を好む種類であり、両コースに共通して観察されているが、桂コースに比べ本コースでは観察数が多い傾向にあった。

コースごとに出現種類を見ると、桂コースでは、留鳥はヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラなど、夏鳥はヤブサメ、アオジ、カワラヒワ、ニューナイスズメの観察数が多かった。繁殖期の5月、6月にかけてヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、シジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、ニューナイスズメが優占していた。

休養園地区コースでは、留鳥はヒヨドリ、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラなど、夏鳥はセンダイムシクイ、アオジ、カワラヒワの観察数が多かった。繁殖期の5月、6月にかけてヒヨドリ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、イカルが優占していた。これらの種類の多くは森林性であり、草原や灌木林などの開けた環境を好む種類としてはアオジ、カワラヒワの2種類であった。平野部の灌木・草原を嗜好する代表的な種類としては、ヒバリ、ノゴマ、ノビタキ、コヨシキリ、ホオアカ、オオジュリンなどが報告されている¹⁾²⁾。しかし、本コースでは現在までにヒバリ、コヨシキリは観察されておらず、2001年度はノゴマ、ホオアカがわずかに確認されただけであった。

なお、休養園地区コースにおける園路工事の影響をみるため、工事期間を含む10月から3月までの秋冬期に毎月調査をおこない、2000年度³⁾までの同月間の確認種を比較した。1999年度は27種、2000年度は22種であり、2001年度は24種であった。

この3年度の該当期間に、毎年高い頻度で出現した種は、アカゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラの5種であり、いずれも留鳥であるが、確認種数等に目立った変動はみられなかった。

これらの結果から、園路工事は、実際に工事が行われていて、機械が稼働しているような状況の場合を除き、鳥類の動向に大きな影響を及ぼしてはいないと考えられた。

2001年度の確認種数について2000年度³⁾と比較すると、両コースとも10種程度減少している。しかし、2000年度確認されていて2001年度確認されていない種類のほとんどは、一度確認されただけのもの、または4月から5月始めの早い時期に確認されたものであり、2001年度は4月中の調査が行われていないことを考えると特に鳥類相が変化し

ているとはいえない。石狩地方の低標高地の成熟した落葉広葉樹林で記録された種類^{4) 5)}と比較した結果、繁殖期にはヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ニュウナイスズメなどが優占していること、また、2000年度までの確認種数も加えると、石狩地方の低標高地の成熟した落葉広葉樹林で確認される種類をほぼ網羅したものとなっており、森林性鳥類にとって良好な環境を維持していることがうかがわれる。

2001年度に初めて記録された種類はカッコウ、アカモズ、ヒレンジャクの3種があり、1999年度から2001年度までの3年間で両コースにおいて総計77種が確認された(表3)。

5 おわりに

野幌森林公園内の鳥類相を長期的にモニタリングすることにより、鳥類の季節変動や鳥類相の変化等を把握することを目的として、1999年7月から鳥類調査を開始した。2001年度は、今後も長期的に調査を継続していくため、前年度までの結果を基にし、調査方法の検討を行った。

今後は、2000年度を基準の年とし、5年ごとに一度詳細な調査を行い、種ごとの個体数の変動を把握し、その他の年度については出現種数をモニタリングしていくこととした。このモニタリングでは、森林公園北部地域の代表的な生息地における鳥類相の資質とその変化について把握することが可能であると考えられる。

また、野幌森林公園は、ため池などの水辺環境や多様な林相など変化に富んだ環境を有しており、今後それぞれの生息環境に対応したモニタリングを進めることも必要である。

なお、この調査には多くの方々に協力をいただいた。特に調査に協力していただいた野幌森林公園事務所の阿部好数、瀧澤克昌、瀧下佳穂(現・上川支庁)、濱本真琴の各氏に対し、この場を借りて厚くお礼を申し上げる。

参考文献

- 1) 北海道自然保護協会, 石狩中、下流域における鳥類生息調査報告書. 17pp (1979)
- 2) 北海道自然保護協会, 石狩中、下流域における鳥類生息調査報告書. 13pp (1980)
- 3) 梅木賢俊・武田忠義・永安芳江: 野幌森林公園内の鳥類リストについて. 北海道環境科学研究センター所報. 28: 90 - 95 (2001)
- 4) 石城謙吉・松岡茂: 北海道大学苫小牧地方演習林の鳥類相その1 広葉樹天然林と針葉樹人工林における夏期の種構成と生息密度. 北海道大学農学部演習林研究報告. 21: 95 - 103 (1983)

- 5) 富沢昌章: 羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区の鳥類リストについて. 北海道環境科学研究センター - 所報. 22: 61 - 68 (1995)

The Birds List of Nopporo Forest Park

Umeki Masatoshi,
Takeda Tadayoshi,
Nagayasu Yoshie.

Abstract

The birds list of Nopporo Forest Park located in the middle of Hokkaido was made after the survey on this area from May 2001 to March 2002. Forty six species of birds was recorded in the forest area. In the grassland area, 49 species was recorded. Seventy seven species of birds were recorded from 1999 to 2001. Their composition and numbers were similar to those observed in the mature broad-leaved forests of the Ishikari lowland area.

表1. 2001年度に森林地区(桂コース)で観察された鳥類の確認羽数と優占度(%). 調査日の列の数字は、確認羽数.*印はコース外でのみ確認された種

科名	種名	5/15	優占度	5/29	優占度	6/8	優占度	6/26	優占度	9/27	優占度	10/17	優占度	11/20	優占度	12/20	優占度	1/16	優占度	2/13	優占度	3/13	優占度	出現頻度	
タカ科	トビ		1.0	1								1	1.6									1	1.8	2/11	
	ハイタカ																							1/11	
シギ科	ヤマシギ		1.0	1																				1/11	
	オオシギ	*																						1/11	
ハト科	キジバト		2.0	2	1.1	2	2.2																	3/11	
	アオバト		1.0	1	1.1	1	1.1	*																4/11	
カッコウ科	カッコウ																							1/11	
	ツツドリ	*		*		*																		4/11	
フクロウ科	フクロウ																							1/11	
キツツキ科	ヤマゲラ	*	2.3	1	1.0					1	2.3			*		1	3.0	1	6.3			1	1.8	7/11	
	クマゲラ																							1/11	
	アカゲラ		1.1	1	1.0	2	2.2	3	3.3	1	2.3	2	3.2	3	8.6	1	3.0	1	6.3	2	7.4	1	1.8	11/11	
	オオアカゲラ									2	4.7					3	9.1			2	7.4	1	1.8	5/11	
	コゲラ		2.3	6	5.9	3	3.4	2	2.2	4	9.3	2	3.2	2	5.7	7	21.2	1	6.3	4	14.8	6	10.9	11/11	
ヒヨドリ科	ヒヨドリ		6.9	5	4.9	6	6.7	9	9.8	2	4.7	3	4.8	8	22.9	1	3.0	1	6.3	*		3	5.5	11/11	
レンジャク科	レンジャク											1	1.6											1/11	
ツグミ科	ツグミ											4	6.5	1	2.9	*								4/11	
	ルリビタキ		1.1	1	1.1	1	1.1																	1/11	
	トラツグミ		1.1	5	4.9	2	2.2	1	1.1															1/11	
	クロツグミ																							4/11	
	ツクミ											4	6.5	1	2.9	*								4/11	
ウグイス科	ヤブサメ		9	10.3	8	7.8	9.0	12	13.0															4/11	
	ウグイス		3	3.4	3	2.9	1	1.1	*		7	11.3												5/11	
	メボソムシクイ																							1/11	
	センダイムシクイ		4	4.6	7	6.9	7	7.9	8	8.7	1	2.3												5/11	
	キウイタキ									*						1	3.0					1	1.8	3/11	
ヒタキ科	キビタキ		4	4.6	9	8.8	7	7.9	7	7.6														4/11	
	オオルリ		5	5.7	3	2.9	1	1.1	3	3.3														4/11	
エナガ科	エナガ		1	1.1	1	1.0	1	1.0																4/11	
シジュウカラ科	シジュウカラ		2	2.3	4	3.9	4	4.3	3	7.0	10	16.1	6	17.1	6	18.2	4	25.0	1	6.3	1	3.7	2	3.6	6/11
	コガラ											1	1.6											3/11	
	ヒガラ		3	3.4	3	2.9	1	1.1	2	4.7	5	8.1	1	2.9	1	3.0	1	6.3	*			3	5.5	10/11	
	ヤマガラ								*															10/11	
	シジュウカラ		9	10.3	5	4.9	7	7.9	2	2.2	8	18.6	2	3.2	*	2	6.1	2	12.5	1	3.7	6	10.9	10/11	
	ゴジュウカラ		1	1.1	1	1.0	3	3.4	2	2.2	3	7.0	4	6.5	3	8.6	4	12.1	*			4	14.8	11/11	
	キバシリ		2	2.0	1	1.1	1	1.1	1	1.1	2	3.2	2	3.2										7/11	
ホオジロ科	ホオジロ		16	18.4	11	10.8	16	18.0	22	23.9	10	23.3	5	8.1										6/11	
アトリ科	カワラヒワ		6	6.9	6	5.9	2	2.2	1	1.1			3	4.8	1	2.9								6/11	
	マヒワ											*												1/11	
	ウリ												3	4.8										2/11	
	イカル		2	2.3	3	2.9	4	4.5	4	4.3			1	1.6		1	3.0							5/11	
	シメ		2	2.3									1	2.9										2/11	
ハタオリドリ科	ハタオリドリ		5	5.7	8	7.8	4	4.5	5	5.4														4/11	
カラス科	カケス										4	6.5	2	5.7	2	6.1	1	6.3							5/11
	ハシボソガラス													*										3/11	
	ハシブトガラス		2	2.3										3	8.6	1	3.0	1	6.3	1	3.7	2	3.6	9/11	
確認種数	46		26	29	25	24	16	16	20	15	15	12	15	15	12	16	16	12	15	15	15	15	15	15	

表2. 2001年度に草原地区(休養園地区コース)で観察された鳥類の確認羽数と優占度(%). 調査日の列の数字は、確認羽数.*印はコース外でのみ確認された種

科名	種名	5/15	優占度	5/29	優占度	6/8	優占度	6/26	優占度	9/27	優占度	10/17	優占度	11/20	優占度	12/20	優占度	1/16	優占度	2/13	優占度	3/13	優占度	優占度	出現頻度
サギ科	アオサギ	*																							2/11
	トビ							*																	1/11
タカ科	キジ	1	1.4	1	3.0	*								*											3/11
	オオジギ			*																					2/11
シギ科	キジバト	*		3	9.1	1	3.0	*		1	4.5														5/11
	アオハト	1	1.4																						1/11
カッコウ科	カッコウ			1	3.0	*																			2/11
	ツドリ	1	3.0	*				*																	3/11
キツツキ科	ヤマゲラ					1	3.0			1	4.5														2/11
	アカゲラ					1	3.0			2	9.1	3	11.1								1	10.0			1/11
ヤケイ科	コゲラ	2	2.9	*		2	6.1	1	3.4	1	4.5	1	3.7	1	4.3										8/11
	オオアカゲラ																								1/11
セキレイ科	ハクセキレイ	10	14.5	3	9.1	4	13.8	*				3	11.1	2	8.7	*									10/11
	ヒヨドリ	3	4.3	2	6.1			2	6.9	*		*													5/11
モズ科	モズ					1	3.0			1	4.5														1/11
	アカモズ																								1/11
ツグミ科	ノゴマ									1	4.5														1/11
	クロツグミ	3	4.3	1	3.0	*		1	3.4																4/11
ウグイス科	アカハラ																								1/11
	ツグミ	1	1.4									2	7.4												2/11
ヒタキ科	ヤブサメ	5	7.2	2	6.1	4	12.1	1	3.4			2	7.4												5/11
	ウグイス	1	1.4			1	3.0	1	3.4	*															4/11
シジュウカラ科	センダイムシクイ	4	5.8	5	15.2	2	6.1	6	20.7																5/11
	キビタキ	5	7.2	3	9.1	2	6.1	1	3.4																4/11
ホオジロ科	オオルリ	3	4.3																						2/11
	ハシブトガラ	1	1.4							1	3.0														8/11
アトリ科	コガラ	1	1.4	1	3.0																				3/11
	ヒガラ	2	2.9	1	3.0	1	3.0					1	3.7												5/11
コジュウカラ科	ヤマガラ	4	5.8	2	6.1	3	9.1	2	6.9			4	14.8	2	8.7	*									11/11
	シジュウカラ	4	5.8	2	6.1	3	9.1	2	6.9	2	9.1	4	14.8	4	17.4	1	20.0	1	16.7	3	30.0	2	18.2	10/11	
メジロ科	コジュウカラ									2	9.1			2	8.7	*									6/11
	キハシリ	5	7.2											1	4.3										1/11
ホオジロ科	メジロ									*		2	7.4												3/11
	ホオジロ					*		1	3.4	2	9.1														3/11
アトリ科	ホオアカ			1	3.0	1	3.0																		2/11
	カシラダカ											1	3.7												1/11
ハタオリドリ科	アオジ	7	10.1	2	6.1	3	9.1	4	13.8	4	18.2	2	7.4												6/11
	カワラヒワ	1	1.4	3	9.1	3	9.1	1	3.4			1	3.7												5/11
カラス科	マヒワ													1	4.3										1/11
	ベニマシコ											*													1/11
ハタオリドリ科	ウリ																								1/11
	イカル	2	2.9			1	3.0	3	10.3							1	20.0								3/11
カラス科	シメ	4	5.8	1	3.0	1	3.0	1	3.4	1	4.5														5/11
	ニューナイスズメ	2	2.9																						1/11
カラス科	スズメ									*															1/11
	カケス	1	1.4			*								2	8.7										2/11
確認種数	ハシボソガラス			*		*		*						*		*		*		*					1/11
	ハシブトガラス																								8/11
確認種数		49	25	22	27	18	18	18	15	13	7	6	8	9											

表3. 1999年度～2001年度に森林地区及び草原地区で確認された鳥類

科名	種名	森林地区(桂コース)			草原地区(休養園地区コース)		
		1999年度	2000年度	2001年度	1999年度	2000年度	2001年度
サギ科	アオサギ		○			○	○
カモ科	オンドリ		○			○	
	マガモ					○	
タカ科	トビ		○	○	○	○	○
	オオタカ	○					
	ハイタカ	○		○			
キジ科	キジ					○	○
シギ科	ヤマシギ		○	○			
	オオジシギ			○		○	○
ハト科	キジバト	○	○	○	○	○	○
	アオバト	○	○	○	○	○	○
カッコウ科	カッコウ			○			○
	ツツドリ	○	○	○		○	○
フクロウ科	フクロウ	○		○			
キツツキ科	アリスイ					○	
	ヤマゲラ	○	○	○	○	○	○
	クマゲラ			○		○	○
	アカゲラ	○	○	○	○	○	○
	オオアカゲラ	○	○	○	○	○	○
	コゲラ	○	○	○	○	○	○
ヒバリ科	ヒバリ	○	○				
セキレイ科	キセキレイ	○	○				
	ハクセキレイ				○	○	○
	タヒバリ				○		
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	
モズ科	モズ		○		○	○	○
	アカモズ						○
レンジャク科	ヒレンジャク			○			
ミソサザイ科	ミソサザイ				○	○	
ツグミ科	コマドリ		○				
	コルリ	○	○	○		○	
	ルリビタキ	○	○	○			
	ノビタキ					○	
	トラツグミ		○	○		○	
	ノゴマ				○	○	○
	クロツグミ	○	○	○	○	○	○
	アカハラ	○	○		○	○	○
	シロハラ					○	
	ツグミ	○	○	○	○	○	○
ウグイス科	ヤブサメ	○	○	○	○	○	○
	ウグイス	○	○	○	○	○	○
	メボソムシクイ		○	○			
	エゾセンニュウ				○	○	
	エゾムシクイ	○	○			○	
	センダイムシクイ	○	○	○	○	○	○
	キクイタダキ	○	○	○	○	○	○
ヒタキ科	キビタキ	○	○	○	○	○	○
	オオルリ	○	○	○	○	○	○
	コサメビタキ	○	○		○	○	
エナガ科	エナガ	○	○	○	○	○	
シジュウカラ科	ハシブトガラ	○	○	○	○	○	○
	コガラ	○	○	○	○	○	○
	ヒガラ	○	○	○	○	○	○
	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○
	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○
ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	○	○	○	○	○	
キバシリ科	キバシリ	○	○	○		○	
メジロ科	メジロ	○	○		○	○	
ホオジロ科	ホオジロ				○	○	○
	ホオアカ				○	○	○
	カシラダカ				○	○	○
	アオジ	○	○	○	○	○	○
	アオジュリン					○	
アトリ科	アトリ		○				
	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○
	ベニマシコ	○			○	○	○
	マヒワ		○	○		○	○
	ウソ	○	○	○	○	○	○
	イカル	○	○	○	○	○	○
	シメ	○	○	○	○	○	
ハタオリドリ科	スズメ	○			○	○	○
	ニューナイスズメ		○	○	○	○	○
ムクドリ科	ムクドリ		○		○	○	
	コムクドリ					○	
カラス科	カケス	○	○	○			○
	ハシボソガラス		○	○	○	○	○
	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
確認種数	77	43	52	46	43	60	49
		62			67		